



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー 2023-2024 年度 前橋北ロータリークラブ会報

2023年11月13日（月）第1808回

会長 廣木晴久 幹事 上村哲郎

会場監督担当 三輪田 聡 委員長



ロータリーソング それでこそロータリー

◇会員数 78 名 ◇出席 72.03%

◇お客様ご紹介 第1分区ガバナー補佐 富岡政明 様

◇ニコニコBOX

田中順路会員…10月18日の6RC親善ゴルフ大会で2位になりました。大変お世話になりました。

佐藤会員…一番下の娘が昨日、七五三のお祝をし

ました。まだまだ先が長いです。

◇幹事報告 上村幹事

◇委員会報告 社会奉仕委員会 小和瀬委員長
IM 実行委員会 川口委員長

◇会員卓話 田中順二 会員

◇会長の時間 「私の趣味」

先週の土曜日に前橋 RC 創立 70 周年記念式典があり富岡ガバナー補佐と上村幹事とで出席してきました。前橋 RC は 1953 年、昭和 28 年 9 月 28 日に桐生 RC と東京 RC のスポンサーにより、日本で 107 番目のクラブとして国際ロータリーより加盟承認されたそうです。

70 周年記念事業は何かを寄付するものではなく、前橋 RC ビジョン宣言と 2023-2028 年の行動計画策定と前橋 RC と前橋教育委員会連携事業、教育でつなぐ地域連携プログラムの実施とクラブコンセプトムービー製作でした。詳細な内容については記念誌が事務局にありますので閲覧して頂けたらと思います。

私の趣味の一つであるクレー射撃についてお話しします。

クレー射撃とは、「クレー」と呼ばれる直径 11 センチメートル、厚さ 25 ミリメートルの素焼きの円盤型の標的を飛翔させ、それを散弾銃で撃破し、その点数を競うスポーツのことです。1 ラウンドで 25 個射撃し、大会により指定された 4~9 ラウンドで割れた合計数を競います。時速 80~120 キロメートルで飛ぶクレーを、音速の約 1.2 倍の弾速の散弾で撃破する競技で、瞬間の判断力、集中力そして身体能力が高度に発揮されるスポーツであると言われています。

クレー射撃の起源は古く、1790 年ごろにはイギリスのハイゲート地方でアオバトを放って射撃するゲームが行われていましたが、1856 年に前方に置いた籠にアオバトを入れ、助手が遠方から紐で扉を開いて放鳩し、これを射撃する競技を考案したそうです。この方法はアオバト射撃（ブルーピジョン・シューティング）とよばれ、イギリスをはじめモナコなど数か国の一部愛好家による非常に贅沢で派手なゲームとして続けられていました。

その後アオバトの不足と、競技の大衆化を図るため、標的にガラス玉を代用するようになりましたが、1880 年にアメリカで今日のようなクレー・ピジョンが発明されて以降、大流行し、1900 年の第 2 回オリンピック・パリ大会でクレー射撃が正式種目に採用されたのを機会に、ヨーロッパそしてアメリカでも盛んに行われるようになりました。現在もオリンピックの正式種目であり、世界の競技人口は約 500 万人とも言われ、世界的には大変メジャーなスポーツです。

日本での散弾銃射撃は、横浜外国人居留地内で雀の放鳥射撃が行われたのが動的射撃のおこりとされており、1878 年（明治 11）、横浜放鳥会が結成され、同年、鶴見村射撃場にて第 1 回放鳥射撃大会が開催されたという記録があります。やがてアメリカからクレー標的とハンド・トラップ（手投げ放出機）が輸入され、クレー射撃の愛好者も全国的に増えていきました。各地に常設射撃場が設置され、1922 年（大正 11）には日本最初の全日本クレー射撃選手権大会が開催されました。現在、公益社団法人日本クレー射撃協会が統轄し、各種公式大会の開催、国民体育大会への参加、国際競技・オリンピック大会への選手派遣、記録の公認などを行っています。なお日本がこの競技で初めてオリンピックに参加したのは、1956 年（昭

和 31) の第 16 回メルボルン大会からで、1992 年(平成 4) の第 25 回バルセロナ大会では、トラップ種目で渡辺和三選手が銀メダルを獲得し、日本クレー射撃界初のメダリストとなりました。

日本でも現在競技人口は 12 万人ほどと言われており、最近ではテレビのスポーツ系番組でも取り上げられることが増え、一般的な認知度も高まって来ています。

クレー射撃の種目には、大きく分けて「トラップ」と「スキート」があります。

トラップ種目の特徴は横一列に 5 つの射台あり(射手の立ち位置) 6 名一組で射撃を行い、それぞれの射台の前方 15 メートルに、1 台ずつのクレー射出機があり、「コール」と呼ばれる射手の「ハッ」などの掛け声で 1 枚のクレーが射出されます。コールは射台の中で据銃、銃床を肩に付けて構えた状態で行います。

射手は 1 つの射台で 1 枚放出されたクレーに対して射撃し、1 枚撃つごとに 1 つずつ射台を隣に移動しながらそれを繰り返して、5 つの射台を 5 周し、1 ラウンドで 25 枚のクレーに対して射撃します。

1 枚のクレーに対して 2 発まで発砲できます。

クレー標的の放出角度は左右 45 度以内、放出機の前方 10 メートルの地点でおおむね 1.5~3.5 メートル以内の高さを通過し、速度・距離は標的が 76 メートルの地点に落下するようセットされます。

トラップ種目は日本のクレー射撃界では最も多くの愛好家がいる種目です。

オリンピックなどの公式競技に則ったトラップ種目は特に「公式トラップ」「国際トラップ」などと呼ばれることがあり、トラップ競技は、1900 年パリ大会よりオリンピック正式種目として実施されています。

射場によっては、クレーの飛距離を抑えた猟友会向けの難易度を下げた設定もあります。

ほかにいくつかの派生型ともいえるトラップ種目があります。

アメリカントラップは 5 つの射台が横一列ではなく、弧を描くように配置されていて、射出機は 3 番射台、ちょうど真ん中射台の前方のみの 1 ヶ所になります。射台ごとにクレーの射出方向が異なり、よりランダムに飛ぶクレーを撃破する競技です。

ダブルトラップは通常、1 回のコールで 1 枚のクレーが出るところ、連続して 2 枚のクレーが射出され、射手はその 2 枚のクレーに対して 1 発ずつ連続して射撃する競技で、以前はオリンピックでも行われていましたが、男子は 2016 年リオ・デ・ジャネイロ大会、女子は 2004 年アテネ大会以降、正式種目から除外されています。

スキート種目の特徴はプレーフィールドが半円状になっていて、7 つの射台(1~7 番射台) が円弧の上に並び、8 番射台が円の中心部に位置しています。円弧の両端に配置された、向かって左側がプール高さ約 3m、向かって右側がマーク高さ約 1m と呼ばれるタワーがあり、その中の射出機からクレーが、円中心部のセンターポール(8 番射台付近) 上空を飛ぶように射出されます。

射手は 1 番射台から開始し、プール、マークから射出されるクレー 1 枚に対し 1 発ずつ射撃し、射撃が終わると隣の射台へ移動し、同様に射撃を行っていきます。1 回のコールで 1 枚のクレーが射出されるシングル、2 枚のクレーが射出されるダブル、が射台によって織り交ぜられています。1 枚のクレーに対し 1 発のみ射撃します。トラップと違い、銃床を脇下まで下げた姿勢でコールし、コール後にクレーが射出されてから据銃、銃床を肩に付けます。

スキート種目は、プール、マークから射出されるクレーの飛翔角度などは変わりませんが、射台を移動していくことによって見た目の飛翔角度が変わるところにゲーム性があります。

スキートは、1968 年メキシコ大会よりオリンピック正式種目として実施されています。

以上がクレー射撃の主だった種目です。

その他、クレーを縦向きにして地面を転がし、それを射手が撃破していくラビットと呼ばれる種目もあります。ウサギなどの実猟での射撃を見据えた猟友会などの射撃会で楽しめることが多いようです。

このようなクレー射撃ですが、所持許可を受けるのには、年 6 回しかない初心者講習を受講し、学科試験に合格して、射撃教習で銃の取り扱いや実際にクレー射撃を行う実技試験に合格後、公安委員会による身辺調査などハードルがとても高いですが興味ある方は相談にのりますので是非お声掛けください